

## 第6章 美しい芦屋をまもる・つくる・そだてる公共施設

道路や公園，河川や海岸などの行政が維持管理する公共施設は，規模が相当大きいことから，景観に占める割合も周囲に与える影響も必然的に大きくなります。その中でも景観形成において特に重大な役割を果たす公共施設を，景観重要公共施設として位置付け，積極的に整備保全を図っていくことは必要不可欠であると言えます。さらに，景観形成を主導的に行う立場にあり，個々の建築計画等に対し指示指導を行う行政が，まずは先導的役割を果たさなければなりません。

### 1. 景観重要公共施設

市民の日々の生活において身近で親しみのある場所であると共に，個性と風格のある美しい景観を有する芦屋川を，景観重要公共施設として位置付け，以下の通り整備に関する事項を設けます。

#### (1) 一般整備事項

- ・ 芦屋川は，芦屋の都市景観を代表する景観軸であり，今後も親しみある水辺空間や堤防敷の緑を提供することにより，山と海をつなぐ緑地軸として保全することが重要であることから，芦屋の地域特性や周辺景観に応じた整備に努める。
- ・ 河川としての必要な機能や安全性を確保しつつ，市民の憩いの場となる親水空間の創出，緑化，遊歩道の設置など，質の高い河川空間の整備に努めるとともに，適正な維持管理を行う。

#### (2) 項目別整備事項

|      |  |
|------|--|
| 護岸   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 防災上等やむを得ない場合を除き，周辺景観と調和した色彩及び形態とする。</li><li>・ 現存する護岸と可能な限り同等若しくは調和した素材，形態とする。</li><li>・ 周辺の景観と調和した建築スケールとし，通りや周辺との連続性を維持し，形成するような配置，規模及び形態とする。</li></ul> |
| 防護柵等 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 防護柵等の安全施設を設ける場合は，華美なデザインを避ける。</li><li>・ 河川空間や周辺景観と調和したデザイン及び色彩とし連続性及び統一性の確保に努める。</li></ul>   |
| 緑化   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 可能な限り既存の松並木・桜並木を保全し，周辺景観や見通しの良い景観回廊の保全に努める。</li></ul>  |
| 橋梁   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域特性及び周辺景観に配慮したデザイン，色彩及び構造形式とする。</li><li>・ 高架道路等については，橋桁と橋脚の総合的なデザインや圧迫感の軽減に努めるなど配慮を行う。</li></ul>  |
| その他  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 照明類，看板等の工作物は，周辺景観と調和したデザイン，色彩及び規模とし，混雑しないように配置する。</li><li>・ 沿道の無電柱化を計画的に行う。</li></ul>  |

## 2. その他の公共施設

### (1) 道路

- ・ 山手幹線，防潮堤線，宮川線，芦屋川左岸線などの地域幹線道路については，市民との協働により沿道の植栽やポケットパーク等憩いの空間形成を図る。
- ・ 川沿いの路線については，潤いある河川空間を活かし，歩行者が気軽に川辺の散策を楽しむことができる快適で緑豊かな道路空間の形成を図る。
- ・ すべての歩行者や自転車に優しく快適な空間を提供するため，歩道空間の確保や道路の緑化，ユニバーサルデザイン化や景観に配慮したベンチや街路灯などの設置，無電柱化などを検討する。
- ・ 沿道の街路樹については，現状の緑量を尊重しつつも街路を取り巻く景観に調和したあるべき姿を検討し，常に美しい街路景観を創出するため，適正な維持管理を行う。

### (2) 橋梁

- ・ 周囲の住宅地景観に溶け込むよう，造形やデザインに配慮する。
- ・ 形態及び色彩については，地域の風土や歴史を把握し，既存の景観を適切に継承したものとする。
- ・ 高欄については，華美なデザインを避け，安全性を確保しつつ，全体とのバランスや調和に最大限配慮する。

### (3) 公園・緑地

- ・ 公園の整備に当たっては，ビオトープの設置や野鳥等の餌場となるような樹種の植樹を行う。
- ・ 公園の改修時には，ユニバーサルデザインの対応を図り，誰もが安心して利用でき，市民の交流の場となるような公園づくりを進める。
- ・ 公園緑地が不足している地区において，公園緑地の配置や整備について検討する。

### (4) 河川

- ・ 子どもたちの遊び場，また市民の憩いの場となるように，多自然型親水対策を検討する。
- ・ 河川沿道の街路樹については，水と緑の調和を意識し，潤いのある通り景観を演出するため，維持管理や植栽計画について特に配慮する。